

## 野球太郎ストーリーズ

## 柳町 達

(やなぎまち・たつる)

身長：180cm / 体重75kg / 右投左打  
1997年4月20日生まれ / 茨城県稲敷市出身 / 外野手中学 取手リトル  
シニア

高校 慶應義塾高

大学 慶應義塾大

社会人



PROFILE

## ターニングポイント

練習の大切さを痛感した時期。幼い頃から言われていたことはあるが、その根本を理解した。経験も積み、指導者からの話を聞いて「こういう考え方もあるんだ」と新しい発見も。野球に向き合う意識がさらに高まった。

## こんな選手

4年春に100安打を達成した打撃センスに溢れる左打者。大学1年春からレギュラーに定着。大きなケガもなく試合に出続けてきた強い体も持つ。今夏の日米大学野球選手権では打率5割で首位打者に輝いた。

## 津留崎 大成

(つるさき・たいせい)

身長：177cm / 体重85kg / 右投右打  
1997年10月10日生まれ / 千葉県鎌ヶ谷市出身 / 投手中学 佐倉リトル  
シニア

高校 慶應義塾高

大学 慶應義塾大

社会人



PROFILE

## ターニングポイント

林卓史前助監督から多くの技術的指導を受け、退任後は自ら考えることで理解を深めた。さらに竹内大助監督にも精神面などのアドバイスを受けピッチングが楽に。「2人と出会えたことに感謝です」と転機になった。

## こんな選手

高3夏前に右ヒジ靭帯断裂の重傷を負い、秋に再建手術を受けた影響で神宮デビューは2年春。2年秋に初勝利を挙げ、先発や中継ぎに奮闘。4年時は制球力が改善されて救援として活躍。今秋の優勝に貢献した。

自分が試合に出ないのは実力がないということ。練習をやり続けるしかないと思っていました」と郡司の背中を追い続けた。

柳町が振り返る。

「将太は郡司に足りないところや勝てる場所を探し、絶対に試合に出てやるぞという強い思いがありました。高校の時のように一緒にやりたいというか、実際に一緒にやってきたんです」

秋の法政大3回戦では代打起用され、勝ち越しタイムリー。嬉しい大学初安打をマークした。その

瞬間まで長かったが、植田自身一度も諦めることはなかったという。「負けたくない」と思ってたっとなってしまいました。僕、負けず嫌いなので」と植田は笑った。

だが今年の3月頃、以前より痛めていた右ヒジが悲鳴を上げた。「注射を打っても効かず、セカンドまで届かなくなると診察を受けたら、もう手術しか回復の見込みはないと言われて……」

無情ともいえる診断に、思わず涙が流れてきた。最終学年、進路が決まる大事な時期にプレーがで

## 植田 将太

(うへだ・しょうた)

身長：180cm / 体重83kg / 右投右打  
1997年12月18日生まれ / 大阪府大東市出身 / 捕手小学 オール松原  
ボーイズ

中学 生駒ボーイズ

高校 慶應義塾高

大学 慶應義塾大



PROFILE

## ターニングポイント

当時の監督だった光山英和氏(現楽天1軍バッテリー兼守備作戦コーチ)から捕手としての技術指導を受けた。「光山さんに教えてもらったからこそ今まで野球ができていますし、僕の野球選手の今がある」と振り返る時期だ。

## こんな選手

中学時代はNOMOジャパンで日本代表経験あり。大学では7試合の出場にとどまるが、練習時ながら二塁送球タイムは1秒76を記録するなどポテンシャルは高い。今年春に右ヒジ靭帯再建手術を受けてリハビリ中。